

Community Learning Centers of Okayama

岡山の 公民館 No.57

平成29年3月 編集発行 岡山県公民館連合会

〒700-0016 岡山市北区伊島町3-1-1 岡山県生涯学習センター内
電話 086-251-9751 FAX 086-251-9757
ホームページ
<http://www.pal.pref.okayama.jp/dantai/kenkouren/index.html>

平成29年度 主な行事予定

- 平成29年度岡山県公民館連合会総会・研修会・ブロック会
日にち：平成29年5月25日(木)
場 所：岡山県生涯学習センター 大研修室 他
- 第39回全国公民館研究集会 高知県大会
(第40回中国・四国地区公民館研究集会高知大会)
日にち：平成29年10月19日(木)、20日(金)
場 所：高知県立県民文化ホール 他



備前ブロック

赤磐市立中央公民館
「ドローン（空飛ぶカメラ！）講座」



備中ブロック

里庄町中央公民館
「避難体験プログラム2016 in中央公民館」



美作ブロック

勝央町公民館
「勝央町カタルバ講座」

公民館記章



このシンボルマークは、公民館の「公」の字を図案化し、しかも、全体の形を「館」になぞらえたものである。

昭和53年 4月1日 制定
昭和35年10月1日 適及適用

I n d e x

各ブロックから・主な行事予定	1
提言・平成28年度表彰	2
平成28年度岡山県公民館連合会事業	3
「人が集う公民館、そのしかけとは」	4、5
平成28年度「公民館『地域のつながりづくり』実証プログラム事業」事業報告会	6
第28回全国公民館セミナーに参加して	6
公民館ひと・ひと・グループ	7
まちからむらからフォトレーター	8

多様な主体との連携・協働、ゆるやかなネットワークづくり

岡山県生涯学習センター 所長 岡本 啓



文部科学省は、平成27年12月の中教審答申を踏まえ、「次世代の学校・地域」の創生プランをまとめた。地域と学校が「連携・協働」して、地域全体で未来を担う子どもたちを支え、地域を創生する活動を「地域学校協働活動」として推進する体制づくりを法改正も含めて積極的に進めようとするものだ。

一方、昨年8月、県生涯学習審議会から「持続可能な地域づくりを担う人材の育成に向けて」の提言があり、県内公民館について、学びを通じた地域づくりの拠点として、また、行政や学校、地域住民、企業、NPO等の多様な主体が相互に連携し、持続的に活動できる仕組みづくりの推進役として大きな期待が示された。さらに、キーパーソンとして、社会教育主事や公民館職員等の専門職員の確保と育成などが求められた。

本年度の県公連調査では、7割を超える公民館が土曜日や夏休み等に子どもを対象にした事業に取り組み、半数を上回る公民館が地域の学校と連携事業を実施し、職員が学校運営協議会等のメンバーになっている。学校と地域づくりの目標を共有する熟議の場も持たれている。さらに、8割の公民館が地域内で定例的な情報交換会でつながり、県内外の優良（事業）公民館活動に学ぼうとしている。

各公民館は従来から地域の拠点としてつながりづくりに力を発揮してきているが、今後さらに、地域の様々な人材や資源をコーディネートする意欲とスキルを高め、地域づくり・人づくりのゆるやかなネットワークを横方向にも縦方向にも拡げていけるように、県公連等による研修内容の充実や専門的な相談助言、優良事例の収集・提供が大切になる。各公民館とともに学びを進めてまいりたい。

輝く平成28年度 受賞

文部科学大臣表彰 優良公民館

○矢掛町中川公民館

幅広い年齢層が公民館に集えるよう、Kidsわいわい塾（小学生）・ときめき楽習（三世代）・男の台所（男性）・なかがわこころのふれあい交流会（高齢者と世代間交流）等の年齢層に応じた事業や、運動会・盆踊り大会・公民館祭等の多世代が交流できる行事を切れ目なく実施し、公民館が地域住民の絆を深める場として機能している。

また、小学生に対する学習支援や自然体験学習活動を行う「めだかの楽校」を中高生の公民館活動ボランティアTEGO隊とともに企画・運営し、小学生の居場所や中高生の活躍の場の創出に大いに貢献している。

○岡山市立西大寺公民館

ESDの視点を取り入れ、地域住民が主体的に学び、持続的な地域づくりに関わる取組を積極的に展開している。「うどん作り講座」の受講修了生と連携し、地域住民にうどんをふるまい、交流の場を提供する「うどん亭のつとめ」を公民館や地域の福祉施設等で開催し、地域の賑わいづくりに大きな役割を果たしている。

また、小学生対象の「夏休みフリー塾」では、大人だけでなく、地元の中高生がボランティアとして参加し、学習支援をはじめ多面での体験活動を行っており、子どもたちの居場所づくりを通して、世代間が交流する場を提供している。

全国公民館連合会表彰(1名)

【永年勤続職員表彰】 平松 秀昭（総社市西公民館神在分館 分館長）

岡山県公民館連合会表彰(11名)

【優良職員表彰】

細川 由起（岡山市立妹尾公民館 社会教育主事）

藤田 美由紀（岡山市立一宮公民館 事務嘱託）

内田 恵子（笠岡市神島公民館 主事）

富山 知恵（赤磐市立吉井公民館 臨時職員）

上野 知章（総社市西公民館泰分館 分館長）

荻野 美知子（前倉敷市教育委員会市民学習センター 主幹）

服部 瞳（岡山市立富山公民館 事務嘱託）

二階堂 昇司（笠岡市笠岡東公民館 館長）

越宗 晶代（赤磐市立西山公民館 臨時職員）

在間 洋則（総社市中央公民館池田分館 分館長）

光永 絹代（鏡野町立奥津公民館 館長）

（敬称略・順不同）

平成28年度 岡山県公民館連合会事業

平成28年度 理事会・総会・第1回研修会

開催日／平成28年5月20日(金) 場所／岡山県生涯学習センター

【理事会・総会の内容】 ●平成27年度事業報告・決算報告及び監査報告 ●平成28年度事業計画(案)及び予算(案) 他
【研修会】 ●実践発表・座談会／「公民館がコミュニティデザイン!」※詳細は、P4～5

登壇者／福井県福井市社北公民館 主事 田中 典子 氏
広島県大竹市立玖波公民館 職員 河内 ひとみ 氏
ファシリテーター／岡山市立中央公民館 主任 重森 しおり 氏

第2回研修会(兼:平成28年度生涯学習・社会教育関係職員研修講座ステップアップ研修(中央研修))

開催日／平成28年6月22日(水) 場所／岡山県生涯学習センター

【内 容】 ●講義／「若者の心に火を灯す～若者の社会参画に向けて～」
●演習／「若者の社会参画についての学習プログラム～今あるものをよりよく～」
講師／認定特定非営利活動法人カタリバ カタリ場事業部 マネージングディレクター 今村 亮 氏

第3回研修会

開催日／平成28年7月5日(火) 場所／岡山県生涯学習センター

【内 容】 ●映画・講演／「惑う～After the Rain～」上映
講師／ものがたり法人FireWorks代表取締役 林 弘樹 氏
人のつながりの基本となる「家族」、今の時代に必要な「地域コミュニティの姿」を監督のお話から考えることができました。作品に登場する、人が集い、仲間が生まれる「石川塾」に公民館の姿を重ね、公民館職員としての志を確認することができました。



第4回研修会

【県北会場】開催日 平成28年8月9日(火) 場所／津山市清泉公民館
【県南会場】開催日 平成28年8月16日(火) 場所／浅口市中央公民館

【内 容】 ●演習／「人が変わり、地域が変わる!!公民館ESD実践～」
講師／岡山市立藤田公民館 主任 猪原 一道 氏
岡山市立旭公民館 主任 大島 典子 氏
岡山市立西大寺公民館 主任 柏崎 希 氏



ESDの視点を意識しながら事業を見直す演習を行いました。ESDを中心に据えた岡山市の取組は大変参考になりました。また、他の市町村、他の公民館の活動についても情報交換ができ、これからの事業につながる有意義な研修となりました。

第5回研修会

開催日／平成29年1月26日(木) 場所／岡山県生涯学習センター

【内 容】 ●報告／「平成27年度 公民館『地域のつながりづくり』実証プログラム事業」
事業報告会 詳細は、P6

●発表／「平成28年度 公民館『地域のつながりづくり』実証プログラム事業」
企画プレゼンテーション大会

持ち時間の10分間で、企画内容や意欲を効果的に伝えようと、熱意にあふれる企画提案が行われました。会終了後、モデル公民館選定委員会による審査会が開催され、次の3実行委員会(公民館)が選定されました。

- ・星空ミュージックカフェ 実行委員会(美作市大原公民館)
- ・水島まち歩き探検隊 実行委員会(倉敷市水島公民館)
- ・藤田ふるさと再発見☆プロジェクト 実行委員会(岡山市立藤田公民館)

第6回研修会(兼:岡山県生涯学習センター開所20周年記念 地域づくり・人づくり実践発表会)

開催日／平成29年2月19日(日) 場所／岡山県生涯学習センター

【内 容】 ●報告／「平成28年度『若者が主役!地域まるごと活性化事業』事業報告会

アトラクション／「井原備中神楽保存会小中学生伝承教室」
事業報告者／ ●「たけべ未来塾」(岡山市立建部町公民館)
●「あかいわ♡みらいにつなげプロジェクト」(赤磐市立中央公民館)
●「津山市子ども食堂応援団」(津山市西苔田公民館)
●「みんなで考え、今日から始める防災」(玉野市立中央公民館)

●報告／「家庭教育支援・科学教育支援の取組事例」
発表者／真庭市家庭教育支援チーム・新見市「宇田の学校」(新見市教育委員会)

●パネルディスカッション／「岡山の社会教育の可能性を考える」
ファシリテーター／岡山大学全学教育・学生支援機構 助教 中山 芳一 氏

パネリスト／NPO法人子ども達の環境を考えるひこうせん 代表理事 赤迫 康代 氏
津山市北小ひなづる児童クラブ 指導員 角野 いずみ 氏
岡山市立中央公民館 主任 重森 しおり 氏
NPO法人山村エンタープライズ 代表理事 藤井 裕也 氏
岡山県生涯学習センター 所長 岡本 啓 氏

(順不同)

～人が集う公民館、そのしかけとは～

第1回研修会 実践発表・座談会

「公民館がコミュニティデザイン！」

- 福井県福井市社北公民館 田中 典子 氏
- 広島県大竹市立玖波公民館 河内 ひとみ 氏
- ファシリテーター 岡山市立中央公民館 重森 しおり 氏



●福井県福井市社北公民館（平成25年度 文部科学大臣表彰 優良公民館表彰 最優秀館）

地域密着型の公民館をめざし、地域の団体や住民と密接に関わり合いをもちながら事業を展開。さらに世代を超えた幅広い地域のニーズを事業に取り組んでいくために、PDCAサイクルで事業に取り組んでいる。「チャオカード作戦」は、「いっちゃお」「やっちゃお」「あつめちゃお」という意味を含めた独自のポイントカードを作り、講座への参加意欲促進につながる様々な工夫や努力を行い、若い世代の参加を大幅に増やしている。



●広島県大竹市立玖波公民館（平成26年度 文部科学大臣表彰 優良公民館表彰 最優秀館）

事業がマンネリ化し、新規の来館者が少ない状態の中、公民館のイメージアップを図る「おしゃれな学びの空間」として、「学びのカフェ」を設置。自由に語り合うカフェタイムを設けるなど、参加者の交流を図り、住民同士の絆を深める。講座内容にも工夫を凝らし、生活に密着したタイムリーな内容、興味深いテーマ、魅力的な講師など、大幅に刷新を図る。その結果、働く人や若者など、今まで来館したことのない参加者が激増し、まちを元気にする多くの「地域ジン」が誕生している。



<地域とつながる秘訣>

重森 さて、お二人の先ほどの発表を聞いてですが、活動は違いますが、共通する部分があるように感じました。お二人はお互いにどんなところが共通する部分だと思われましたか。

田中 河内さんとは何度か一緒にさせてもらっているのですが、いつも、地域の方と強くつながっていると感じます。公民館は人が集う場所です。地域の方と同じ思いを持ちながら地域の方を巻き込んでいく。そういうところが同じだと思います。

河内 手段は違っても目指すところは同じだと思います。地域を元気にするためにかけずりまわっているところ、そして地域への思い。それが一緒だと思います。

重森 お二人ともフェイスブックや紙等で情報発信・情報提供を積極的にされていて、いろんな世代の地域の方を巻き込んでいる事例だと思いました。その点について、工夫しているところ、人を巻き込む秘訣などがありますか。

田中 私は、毎日誰かと会ってあいさつした時から、「この人は何ができる人かな」「この方にはどんなことがしてもらえらるかな」と考えています。社北公民館では、地域の団体の会合がよく行われています。例えば自治連合会です。26の自治会があり、毎年役員が替わり運営が大変な面もありますが、毎年26名の新しい方に出会うことができます。「この方は、どんなお仕事かな？何が得意かな？」というように、『こんにちは』『お疲れ様』のあいさつと同時につながれるところを考えています。

河内 私も同じですね。公民館に一步足を踏み入れた人を逃がさないようにしています。例えば郵便配達や銀行の方でも、「何か一緒にやりましょう」と声をかけています。

重森 こうして、お二人のお人柄を見ていたら、出会った方とすぐにつながりを作って公民館に引き込んでしまうのは、よく分かります。では、公民館に来ない方にはどうですか。そういう方の巻き込み方

で何かあれば教えてください。

田中 面と向かって話ができないと次へ進むというのは難しいのですが、そこはフェイスブックのつながりを活用しています。行事についての情報を発信し、「いいね」をいただく。全く会ったことのない方から「いいね」をいただき、その方と町のどこかですれ違う。そのときに声をかけてくださる方もいる。そういうところから次のつながりが生まれる。突破口はどこにでもあると思います。

河内 私は、こちらから、お願いしないようにしています。楽しそうにしているのを見せて、寄ってくるのを待っています。そんな仕掛けをして、待っているような感じです。

<若者を巻き込む工夫>

重森 どちらも中高生を上手に巻きこんでいらっやいますよね。河内さんの発表の中で学校と一緒にと言われてましたが、なかなか難しいところだと思うのですが、学校に限らず中学生たちが地域の一員として認められるという点で何か工夫がありますか。

河内 高齢化が進む中で、若い力が必要になるので、若い人を取り込みたいと思っています。先ほども言いましたが、中学生のほうから来てもらえるようなイベントを行っています。それも、当日にだけ来てもらうのではなく、企画段階から入ってもらって一緒に作る企画者として参加してもらっています。

田中 私たちの地域は、中学校に「一部活動一ボランティア」というのがあります。これは福井市でも社北公民館だけなんです。部活動単位で年間計画を立てて、取り組んでいます。学校主導の企画、公民館主導の企画とあって、学校と公民館がしっかり結びついてます。部活動していない子も手を挙げてどれにでも参加できるという仕組みになっています。

重森 なるほど、プロセスの部分から子どもたちが参画して、一緒に話し合ってつくること、人が主体的になっていくということですね。中高生たちも公民館に行ってみたら、知らない間に担い手に

なっているというように感じました。

<公民館職員の役割分担>

重森 地域の方を巻き込む上で職員がその下地を準備すると思います。職員の役割分担などはどうなっていますか。

田中 社北公民館では、館長は週に3日間の勤務です。主事は3人いて、常勤です。ただ勤務時刻に時間差があります。その中で、3人が一緒になる時間帯に、どんな気持ちでどんな企画をするのかを話し合っています。主事3人はそれぞれ担当をもち、講座や事業のなかで地域の方の笑顔から元気とやる気をもらっています。お互いの事業をしっかりと共有しています。私は社北公民館11年目になりますが、他の二人は3年目です。年数が違うと、違った意見が出てくる。年齢、勤続年数が違うと新しい意見が入ってきて、公民館が変わっていくことは大切だと思います。同じ気持ちと違う意見、その話し合いが大切だと思います。

河内 大竹市には公民館が4つあって、すべての館長を市の生涯学習課長が兼務しています。館長は現場には居ないので、やっているのは私一人です。でも、一人というデメリットをメリットと考え、地域の人が館に入り込みやすいということになります。一人であって決して一人ではない。地域の皆さんと一緒に動いている、館長はそれを見守ってくれているような感じです。予算とか足りなかったらお願いするなど、館長は大きな意味での見守りだと思っています。

重森 玖波公民館も社北公民館も職員の状況に違いがあります。でも、「だから、やらない」ではなく、「こうやったらもっといいことができそう」と考えて工夫されているんだなあと思いました。

<公民館に必要なもの>

重森 さて、先ほど河内さんの発表の中でも公民館がだんだんなくなっているような話が出てきましたが、ある自治体で、公民館を新しく作ろうとなったとき、公民館が公民館であるために、地域の拠点であるために、お二人は何が必要だと思われますか。3つほど、挙げてもらいたいと思います。

(会場の参加者にも同様の質問をして、回答してもらう)

田中 今、会場の皆さんの意見でも一番多かったのは、「人」ではなかったかと思います。私も真ん中に書かせていただきました。公民館には人が集うことが大切です。これは、一番だと思います。2つ目は「知恵」です。自分本位でなくいろんな方からアイデアを頂いて、新しい公民館をスタートし、どの目的地へ行くのか、「知恵」があればいろいろな方向から攻めていけると思います。3つ目は「笑顔」。人と人のつながりは「顔」、そして「あいさつ」からです。公民館の一番大切な仕事は、事務をすることではない、明日の仕事を考えることではない、窓口に来られた方に笑顔で接することが一番だと思っています。私は、新しい職員さんが来られたら、このことを一番に話しています。私が新しい公民館に必要なと思うことは、「地域の皆さん、集まってください」「そして、知恵を持って集まりましょう」「そして、笑って楽しく進んで行きましょう」ということです。

重森 この3つがあると、とても楽しいことができそうですね。では、河内さんはどうですか。

河内 はい。まずは「人」、これは「仕掛ける人」です。次に「人」、これは「地域住民」。そして、「やる気、本気」です。1つ目の「人」は、種です。2つ目の「人」は土です。3つ目の「やる気、本気」は、水、肥料、風に当たるんだと思っています。

重森 やっぱ「人」なんですね。会場の皆さんのご意見も、お二人と共通する部分が多かったように思いました。

<最優秀公民館として>

重森 今回、公民館表彰で全国1位になった公民館の実践を聞かせていただいたのですが、全国1位になって変わったこととか、これを節目に新たにチャレンジしようと思ったことなど、これを境に変わったことがあれば教えてください。

田中 3年前になるんですよ。全国1位になって、それを守って行こう、維持していこうという気持ちが地域の方に根づいていったように思います。そして、その中で新しく立ち上げようという気持ちが私にも起こってきました。「チャオカード作戦」は8年間続けてきましたが、小学生で「チャオカード」を経験した子たちが、今は中学生になり、「一部活動一ボランティア」でも中学生との連携がしやすくなりました。一つのことを継続していくことが地域を変えることにつながるということが分かりました。その子どもたちのお母さん方、子育てが少し落ち着いた30代、40代の男女を対象に「しゃべり場公民館」というのを立ち上げました。受賞したことを機に地域の方も一つステップアップ、私たち職員も一つステップアップしていこう。地域をひとつにまとめていこう。という活動を展開していこうと思っています。

河内 玖波公民館は、賞を頂いて、まちの人が喜んでくれて、まちが元気になりました、まちが輝きました。責任が重くなりました。公民館も地域も全国1位を継続していくという思いです。受賞したことで、他の地域とのつながりができたので、他地域とつながって何かできないかなと思っています。ぜひ、岡山の皆様とも何か一緒にできたらと思います。

<あらためて、公民館の役割>

重森 そろそろ時間もなくなってきたので、最後の質問です。改めて、地域における公民館の役割、その役割を果たすための職員の役割をお話しいただけますか。

田中 皆さん、その地域に学校なかったら困りますか。病院がなかったら困りますか。困りますよね。じゃあ、公民館がなかったらどうですか。公民館がなくても日々生活はしていけると思うんですよね。でも、公民館があること、活動に参加することで豊かな人生を送ることができ。「楽しかったね、嬉しかったね」と生活にスパイスを効かせることができる。そんな公民館にするために、職員は日々、どのように過ごしたらいいのか。事業の継続はしていきたいが、マンネリ化はしたくない。そのためには、企画が大切。そんなことを、3人の主事がつねに話し合いながら、知恵を出し合いながら公民館活動を進めていきたいと思っています。

河内 地域に必要とされる公民館。役に立つ公民館。そして、働いている私たちの役割は、公民館にしかできないことを行う。カルチャーセンターとは違う、しっかり学びを入れた社会教育。地域で必要なことを学ぶ。学んだことを地域に生かす。それを公民館がしなくてはいけないと思います。人と人をつなぐ拠点。社会がどんなに変わっても、人と人のつながりが大切なのは変わらない。家に居て何でもできる便利な世の中だからこそ、表に出て人と人とのつながる場所が大切だと思います。集いの場、学びの場、そういう仲間づくりの場、地域の絆をつくる公民館という原点に戻りたいと思います。

重森 ありがとうございます。本日、お二人には公民館の原点について教えていただいたように思います。人々が公民館に集うことからいろんなことが始まって、そこで新しい知識や知恵を学び、学んだことで終わらず、学んだことをさらに行動に移して、その中からまた学びを作り出していくという形。人として一生涯、社会と関わり続けていく、その拠点として公民館があり、そこを支えるためにお二人のようなすてきな職員がいて、活動が活発になり地域が豊かになっていくということがよく分かりました。お二人のお話を聞いて、公民館をなんとかしたいなという思いが、なんとかできそうな思いになってきました。河内さんも『一緒にやりましょう』と言ってくださいましたが、自分の館だけ頑張るのではなく、今日、岡山県の公民館がこれだけ集まっていますので、ぜひ公民館もつながってよりよい地域よりよい実践ができるようになればいいなと思いました。改めて、田中さんと河内さんに感謝の意味を込めまして拍手を送りたいと思います。

※内容を抜粋、要約して掲載しています。

平成28年度 公民館『地域のつながりづくり』 実証プログラム事業 事業報告会

公民館を拠点とした「地域のつながりづくり」の具体的な取組の様子や成果等について紹介していただきました。公民館が地域と密接なつながりをもった拠点となれることを実証していただいた平成28年度モデル公民館のみなさんに、参加者から盛大な拍手が送られました。

事業報告を行った実行委員会（公民館）

【地域でつながる子育てプロジェクト実行委員会(津山市城西公民館)】

『地域の課題解決・地域をあげた子育て世代への支援』

- 【工夫点】 ●孤立した子育て解消のため、地域住民がスタッフとなり、就園前の親子の居場所を開設。
●保護者が参画できる事業運営を行うことで、保護者の自主的な活動を促す。
●夏休みに高校生ボランティアを子育てサロンのスタッフとして起用。
- 【成果】 ●母親から離れなかった子が、離れて遊べるようになり、母親がゆっくりできる時間ができた。
●母親同士の情報交換や交流、スタッフとの交流で子育ての不安解消につながった。
●親から自主的な提案が出るようになり、読み聞かせや幼児の英会話体験ができた。



【瀬戸内市「竹田喜之助ものがたり紙芝居制作」実行委員会(瀬戸内市中央公民館)】

『郷土の偉人の業績を伝承し、地域への誇りと郷土愛をみんなで育む』

- 【工夫点】 ●市民とともに郷土の偉人について学ぶ「喜之助マイスター養成講座」を開講。
●人形劇に関わる各種団体等が集い、学び・協働し、紙芝居を制作。
●読書ボランティア等による公民館、図書館、学校、高齢者施設等での紙芝居の活用。
- 【成果】 ●郷土の偉人について学ぶことで、顕彰会会長や図書館学芸員が時には講師、時には受講生となりお互いの知識を伝え合い、学び合うことで各団体間の交流が生まれた。
●「喜之助マイスター養成講座」では、人形劇の鑑賞や人形の糸繰り体験を入れることで、参加者同士の交流が深まった。



【高屋町子守唄の里音楽祭実行委員会(井原市高屋公民館)】

『音楽による地域のつながりづくり』

- 【工夫点】 ●中学生の運営委員会への参画と音楽祭のポスター、チラシの企画。
●高屋町民による混声合唱団の結成。
●音楽祭の準備、当日運営に幼・小・中のPTAからの増員。
- 【成果】 ●混声合唱団の結成により、週1回の練習を通して「中国地方の子守唄」への愛着と住民の輪が広がっていった。
●ポスターやチラシのデザインを中学校の吹奏楽部をお願いすることで、これまで以上に音楽祭への関わりを増やすことができた。



第28回全国公民館セミナーに参加して

平成29年1月16日(月)～18日(水)の3日間、国立オリンピック青少年記念センターにて開催された「第28回全国公民館セミナー」に参加されたお二方の感想を紹介します。

◆美咲町教育委員会生涯学習課 課長 鈴鹿 滋

文部省(当時)により、公民館設置の奨励がなされてから70年目の節目にセミナーを受講する機会に恵まれ、改めて公民館の役割や存在意義を確認することができました。

少子高齢化が進む中、スマホ・インターネット・SNSなどがコミュニケーションツールの主流となっていますが、地域づくり、人材育成、課題解決のためには人と人とのつながりは不可欠です。そして、そのつながりの場として公民館は欠かせないものですが、行財政改革が進み公民館の運営が厳しい中、これからの時代と学習ニーズに合った的確な公民館活動を推進していきたいと思います。

◆赤磐市立赤坂公民館 事務職 内藤 貴佳

講義では公民館の貸出利用における許可の判断について豊富な事例やワークショップを交えて教えていただき、大変勉強になりました。事例発表では若狭公民館がネットによる情報発信を活用して今まで公民館に来なかった世代を呼び込んだ話や、企画から成果までをわかりやすく記録に残す「じゃばら手帳」を作成した話が印象的でした。

また全国から集まった参加者から、普段は聞く機会のない他所の様々な公民館の様子を伺え、参考になりました。

公民館 ひと・ひと・グループ

備前ブロック



「全日本キャデットアーチェリー大会にて演奏」

備前市立日生地域公民館

「日生町甚九郎太鼓保存会」

郷土の偉人「田淵屋末友甚九郎」の遺徳をたたえ、海の男の心意気を後世に伝えるべく、平成元年に結成された当初から、公民館ホールで週2回の練習に励み、地元を中心に活動しています。かつては、ドイツや韓国、ハワイ等での海外公演も行いました。最近も国際的な交流の機会があれば、積極的に参加しています。

会員数は32名で、大人中心の「日生甚九郎太鼓」、女性中心の「海華(かいか)」、子ども中心の「海童(かいどう)」という3つのチームがそれぞれの持ち味を生かして、活動を展開しています。

備中ブロック



「講演会 PR 活動のひとこま」

笠岡市今井公民館

「今井を訪ね・語ろう会 成人学級」

私たちは、地区の先人達の足跡を訪ねて学習したことを地区の皆様方に伝えていくことが地区の元気づくりにつながるの思いで活動している愉快的仲間です。会員は現在12名。毎月の例会での学習、定期的な講演会・地区外交渉等の開催、文化祭での活動発表などを行っています。昨年は、笠岡市と岡山大学より講師を招いて講演会を開催しました。中でも、今井の果樹園芸の先駆者をテーマとした講演会では、多くの質問が出て、会場が大いに盛り上がりました。今年は、小学生と地元住民との「ふるさと探訪ウォーキング」でガイド役を務める予定。発足7年目を楽しく航海中です!!

美作ブロック



「たんけん! ブルーベリー畑! でジャムづくり」

西栗倉村教育委員会

「あわくらたんけんクラブ」

あわくらたんけんクラブは、「西栗倉のすべてで遊ぼう! すべてから学ぼう!」をテーマに、「あそび」を通し、子どもたちが考える力、応用力、自発力、想像力を自然に身につけ、さらに「西栗倉ファン」になってもらうと活動しています。

毎月1回の活動では、西栗倉ならではの自然体験や村の人たちとの交流体験を行っています。7月は農園に行き、みんなで摘んだブルーベリーでジャムづくりを行いました。

今後も魅力的な体験を行い、西栗倉をもっと好きになってもらいたいと思います。

まちからむらからフォトレター

和気町中央公民館



「人づくり・仲間づくり・町づくりカラオケ発表会」

文化協会所属のカラオケ同好会の代表者が「和気町カラオケ連絡協議会」を立ち上げ、学び館「サエスタ」にて年2回実施しています。カラオケという文化を通じて、人と人とのつながりを作っていこうと佐伯地域と和気地域が一つの組織になり活動しています。

吉備中央町御北公民館



「御北めばえ大学“にここ広場”」

親子で集まれる場所として、未就園児とその保護者を対象に開講しています。リトミック（音楽を使った教育法）で体を動かしたり、古新聞や牛乳パックなど身近な材料を使ったりして遊んでいます。参加者は就園前の今しかない貴重な時間を大切にしています。

浅口市中央公民館



「夏GAKUサブリin中央公民館」

夏休みに小学生を対象とした学習教室を開催しました。参加者は算数や英語の他、工作や科学、作文、走り方教室などを通じて、他の学校・学年の人と交流し、普段とは違う環境での学習に刺激を受けたようです。

高梁中央公民館



「教育講演会」

「高梁を誇りに思い、愛着をもとう」という趣旨のもと、講師に高梁出身の著名人をお迎えして開催しています。野球殿堂入りした平松氏を迎えたこともあります。今回は金融界の重鎮であり、郷土の誇る先輩である、橋本徹氏から学が講演会を開催しました。

美咲町公民館本館



「英会話教室」

町民の要望から生まれた初心者向け英会話教室に5歳から70歳までが参加しました。外国人ALT講師による「聴ける・話せる旅で使える英会話」を目的に10回の講座を開催し、受講生からは「楽しく学べた」などの声が多く聞かれました。

美作市大原公民館



「星空ミュージックカフェ」

今年で2回目の開催となる「星空ミュージックカフェ」。開放感ある野外のステージでは、和太鼓、笛、三味線、ジャズと様々なジャンル3組が演奏し、来場した多くの方が耳を傾け、コーヒ一片手に癒しの時間をゆっくり過ごされました。